

日本と世界の平和のために

四街道・9条の会

ニュース

198号

2021年 11月9日

発行者 林 孝

連絡先 Tel・Fax 043-432-2593

『11月例会』の案内！

11月25日（木）、下記の通り開催します。
ぜひご参加ください。



『総選挙の結果と改憲』

1. 日時 11月25日（木）午後3時～5時

2. 会場 四街道公民館 2階（視聴覚室）定員10名

政権選択が問われる総選挙で『市民と野党・護憲勢力』が「共通政策」「政権協力」「選挙協力」の三つの合意をして総選挙に望んだ歴史的なチャレンジでした。

新政権の過半数が維持され、日本維新の会の伸長を許してしまいましたが、今回の選挙は最初の挑戦として大きな意義があったように思います。

岸田首相は議席減になったことに関して「政権にたいして厳しい声が寄せられたことはあった。しっかり受け止めなければならない」と述べました。

総選挙の結果、与党に日本維新の会を加えた三党で改憲発議に必要な3分の2を超えたことで首相は「党是である憲法改正に向けて勢力的に取り組む」と主張。議席を大幅に上積みした維新について「同じ保守勢力であることも踏まえ、政策ごとに是々非々で議論をしていく」と協力に期待しました。

『総選挙の結果をどう見るか』『改憲の今後の動き』などについて話合います。

憲法生かす政治が必要

日本国憲法公布から75年となった3日（文化の日）、国会正門前で「平和といのちと人権を！」「憲法を守り、生かす政治が必要だ」と声を上げ、憲法大行動が取り组まれました。参加者は1200名。

改憲を巡っては維新代表の松井一郎大阪市長が、改正手続きに必要な国民投票を来夏の参院選と同日実施するよう主張しています。

集会では、主催者代表の高田健さんは『今日を出発点に全国各地で運動の基盤を一層広げたたかっていきましょう』とあいさつしました。

本田由紀さん（東京大学教授）は『共闘野党をもっと強く』
志田陽子さん（武蔵美術大学教授）は『憲法実質改変許すな』
松元千枝さん（ジャーナリスト）は『女性真っ先に犠牲に』
岸本啓介さん（憲法共同センター）は『共闘の力確認できた』
広渡清吾さん（東京大学名誉教授）は市民連合からの連帯
あいさつで『政権交代めざし決意』をアピールしました。

千葉県船橋市から参加した医療事務のTさんは「九条は世界に誇れるもの。衆院選の結果は残念だったが、憲法を守る運動をあきらめてはいけな」と思いを新たにしました。

新型コロナウイルス対策として、集会はオンラインでも配信されました。

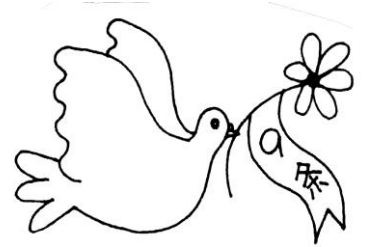


「憲法守れ」「改憲発議は許さない」と

10月の例会から！

10月の例会は『組閣から新政権をどう見るか』をテーマで開催し、9名が参加しました。

参加者から、5分程度でスピーチをしてもらい意見交換しました。



- ・国の借金が100兆円もあり、どうしていくのか。
- ・選挙の公約もサービス（お金をばらまく）合戦の様相だ。
- ・投票率が低いが、若い世代が気付くかどうか。
- ・アベノマスクが大量に倉庫に保管されているニュース。8272万枚（118億円相当）、保管費も6億円になるという。（ショック）
- ・小選挙区制度には問題がある。市民連合がまとまったのはよかった。9区は2人、期日前投票は、投票率は上がるのか（民主党政権時は70%）
- ・消費税・コロナ問題など、ここ10年～15年の政治が悪くなってきている。日本は世界の一流国と言われていた。（経済力もあるし）しかし、今は2流国～3流国になってきたような気がする。科学技術も「真鍋さんがノーベル賞」をとりましたが、進んでいるの？
- ・賃金格差も米国では広がっている。選挙で格差社会のことが取上げられていないのが問題。
- ・選挙で政権が変われば生活も良くなる。防衛費を1%の枠をこえて2%にしようとしている。
- ・新自由主義路線でひずみが酷く、貧困層が増えてきている。
- ・野党候補の立ち合い演説会に寄ったが傍聴者が少ないように思えた。ある党の10万円給付は選挙目当てのように感じる。
- ・二人でやっと生活できる状態。政治を見ていると「麻生さんの北海道での米の発言」や「入管の事件」「投票率がどうしたら上がるのか」など問題が多々ある。
『年金のこと』『地球温暖化』『生活困窮』『アベノマスクの税金の無駄』『投票率』などの意見交換をしました。

レポート報告『選挙制度と一人一票訴訟、今度の国民審査にどう臨むべきか』も行われました。

「我々が行使する清き一票が、住む所によって価値に重い軽いがあり、一人一票を行使する人と一人二票分それ以上の政治参加の影響を持つ人が多数いる。

つまり、一人一票分を行使する人がいる一方で、佐倉/若葉区/四街道/八街の市民の参政権が半人前、衆院選0.57票、参院選0.37票分の影響しかない。しかも全国多数に存在し、幾たびとなく平然とこの理不尽な国政選挙が続いている不条理に義憤を抱いています。

一人一票価値の是正を求めた訴訟は全国14の高裁・高裁支部でなされ、その最終審の最高裁判所の判決で合憲とされた。最高裁判官を罷免できる国民審査制度は、主権在民の日本国憲法で設けられた貴重な制度です。活用しない手はありません。

新政権の動き（岸田政権発足1カ月）

新政権の発足から1カ月が経ちました。岸田首相は就任から多くの期間を選挙活動に費やし、新型コロナ対策や経済対策など重要政策の具体化はこれから。

その中身も、新自由主義の継続や、改憲・軍拡推進、気候危機やジェンダー平等に向き合わない安倍・菅内閣を継承するものであることが、総選挙を経たわずか1カ月で浮き彫りになってきました。

『コロナ失政反省語らず』～岸田首相は就任から10日後の10月14日に衆院を解散。総選挙の中の演説でもこの間の失政への反省を全く語らず、政策の中味は、行き詰まった9年間の安倍・菅政治を引き継いでいます。

『改憲・軍拡前のめりの姿勢』～岸田政権は総選挙公約に、安倍政権下でつくられた9条への自衛隊明記を含む「改憲4項目」を示し、「早期の憲法改正を目指す」と明記。違憲の敵基地攻撃能力の保有も盛り込みました。

『気候危機・ジェンダー平等に背』～岸田首相は、英国グラスゴーでの国際会議で「人類の未来に貢献する」と演説しましたが、石炭火力発電からの脱却に一言も触れず、「化石賞」をもらってしまいました。また、ジェンダー平等を求める国民の声に背を向けています。

『分配重視消えアベノミクス評価』～岸田首相は、『新しい資本主義』を看板政策として打ち出し、「分配なくして成長なし」「成長と分配の好循環」と繰り返してアピールしてきました。しかし、選挙終盤の街頭演説では分配論はトーンダウンし、「まずは成長」を強調。成長最優先で分配なしの中身が見えています。「アベノミクス」の9年間で、富裕層の資産は6兆から24兆円になり、大企業の内部留保は133兆円も拡大する一方で、労働者の実質賃金は年間22万円も減少しました。

「雨後の筍」？ 総選挙後に急浮上の「改憲論議」

「政権選択」を主題に実施された総選挙、選挙前のマスコミの予想は「維新」の躍進という形で総崩れ。そして自民が巻き返し、立民が比例代表で議席減という結果となった。

今回初めてといてもいい野党共闘は多くの選挙区で激戦を繰り広げ62勝（勝率約3割）という一定の成果を得た。

今回の選挙、自公は自らの立ち位置を棚上げして、野党共闘を「野合」（維新も国民も合唱）として切り捨てる大宣伝、対して野党共闘の合意政策の浸透が不十分（宣伝力・営業力の欠如？）だったことが否めない。

つまり「政権選択」が主題なのに、反共攻撃を基軸とした事実に基づかない「体制選択」という戦術をとった与党側に票が動いたという結果かもしれない。

さて、今回改憲勢力が2/3を大きく超えたことで、雨後の筍のごとく鎌首を持ち上げてきたのが「改憲論」、総選挙の主要争点ではなかったにもかかわらず、間髪を入れず岸田首相は改憲に舵を切り、これに維新も即応して来夏の参院選と同時に「国民投票」を行うべきとの発言が続いた。

ここで自民党の改憲草案についておさらいしておかねばならない。

全体を通して感じられるのは、憲法はそもそも「権力を縛る」ものなのに、「国民を縛る」という発想が貫かれている。緊急事態条項の新設がその最たるもの。災害やコロナを盾にして私権を制限して官邸に権力を集中するというもの。これこそ民主主義の破壊である。

そして何より9条改憲が本丸で、9条1項2項はそのままだが、3項として自衛隊を明記し、自衛権（集団的自衛権つまり軍事同盟を認めること）にも言及している。要するに地球の裏側で第三国が日本の同盟国に攻撃した場合でも、日本はその第三国に反撃が可能ということになる。

後法優先の原則からすれば3項の重みが増す。憲法の最重要事項である「平和主義」に反する暴挙である。

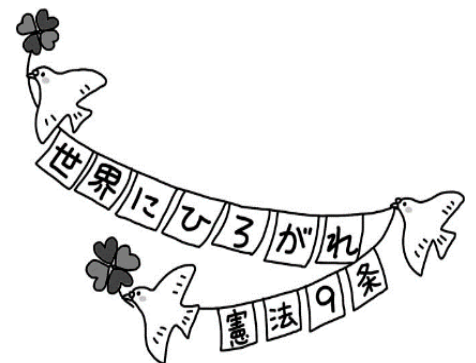
合区解消、教育環境の整備（維新は高等教育無償化を提唱）はわざわざ憲法に謳わなくても法律で何ともなる。いわば「アメ」、隠れ蓑である。

憲法審査会を急ぎ強行すること、この狙いの本質は何なのか。

丁寧な国民、市民に説明していく活動が急務である。

未来に禍根を残さないために！

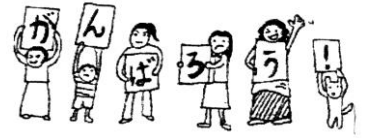
（大日在住 山田真希夫）



「お知らせ！」

★「戦争させない！四街道の会」宣伝・署名活動

- ・11月19日（金）ヨ一カド一前（11：00～12：00）



★ 四街道・9条の会

- ・11月9日（火）はいつもの駅頭宣伝（午後6時半～7時、スタンディング）
- ・11月25日（木）は午後3時～5時まで『11月の例会』

『催し案内！』

★第9回『福祉を考えるつどい』

1. 日時 11月12日（金）（14：00～16：30）
2. 会場 四街道市文化センター 301号室・302号室
3. 目的 立場の弱い人たちがくらしやすくなるにはどうしたらよいかという観点から「地域福祉」の重要性について学習する。
4. 日程
 - ◆13：30～受付 ◆14：00～14：15～オープニング
 - ◆14：15～15：50 講演
『コロナ禍における地域福祉のあり方』（仮題）
◎講師 菱沼 幹男先生（日本社会事業大学准教授）
 - ◆15：15～15：30 休憩
 - ◆15：30～16：15 質疑応答
 - ◆16：15～16：30 エンディング
5. 対象 関心のある方
6. 定員 75名（要予約・参加費は無料）
7. 主催 Tea for two 連絡先⇒代表 伊佐 勉
 - *固定電話 043-424-5351 *携帯電話 080-1074-3126
 - *Eメール osamu1956sumi220@docomo.ne.jp
8. 共催 特定非営利活動法人希望



★ 四街道市核兵器廃絶平和都市宣言38周年

『平和と文化のつどい』

～伝えよう平和！未来に生きる子どもたちと～

1. 日時 12月12日（日） 開演13：30（開場は12：45）～16：30
 2. 会場 四街道市文化センター 301・302号室
 3. 日程 *実行委員長挨拶 *市長挨拶・教育長挨拶
 - *伊佐 勉さんの歌とお話
 - *被爆者 児玉三智子さんのお話
 - *映画『おかあさんの被爆ピアノ』上映時間133分
 4. 参加費用・お知らせ
 - ★参加券 500円（小中高生は無料）
 - ★当日券はありません。
 - コロナ対策のため 定員 75名
 - ★コロナ関連で中止の場合のみ払い戻します。
 - ★当日体調の悪い方のご来場はお断りします。
 - ★マスクは必ず着用、受付での検温・消毒や参加券に氏名等の記入にご協力ください。
- 主催 四街道市核兵器廃絶平和都市宣言38周年「平和と文化のつどい」実行委員会
 - 後援 四街道市・四街道市教育委員会・振興財団・千葉県被爆者友愛会・他
 - 参加券取扱い・問合せ先 四街道市文化センター・各実行委員

